第３学年６組　保健体育科学習指導案

学習指導者　　教諭　末澤　和士

１　単元名　　球技（バレーボール）

２　単元について

（１）　本単元は、学習指導要領の体育分野Ｅ(1)イを扱う。バレーボールは、ネット型の競技として集団対集団で得点を競い合う種目である。手や体の一部を用いてボールを操作するが、ボールを保持・静止させることができないため、思いの通りにボールをコントロールすることが難しい。また、パワーポジションから前後左右に重心を移動させる、力強い踏込からより高くジャンプするといった高度な身体活動が頻繁に行われる。これらを踏まえて、バレーボールの学習を通して、瞬発的に動くこと、巧みに体を使ってボールを操作することなど、身体能力の向上が見込める。また、ボールをつなぎ合って攻撃を展開しラリーを楽しむことで、状況判断力を高めることができ、協調性や互いにミスをカバーするといった、人を思う心を育むことも期待できる。

　　　　そこで、本単元では、付けたい力を以下の3点にする。

　　　①攻撃に関わる場面で、自分の役割に応じたボール操作をする力。

　　　②自分やチームの課題を解決するための練習や話し合いを、主体的に進めていく力。

　　　③ラリーの中で状況を的確に判断し、自ら動いてボールに関わろうとする力。

　　　　バレーボールは、テレビ放送で目にする機会が多い。また、「ハイキュー」や「２４３」といったアニメでクローズアップされ、子どもたちにとって身近なスポーツである。授業でバレーボールを経験することで、その魅力や楽しさを知り、生涯スポーツを親しむ際に選択肢の一つとなるように学習を進めたい。

（２）本学級の生徒は、体育活動を好む生徒が多い。また、運動量において、意図する量以上に活動する生徒も多く、授業後の満足感は高い。1年、2年とバレーボールを学習してきて、スパイク（５３．５％）や連係プレー（５７．１％）に興味を示している生徒が多い。そこで、攻撃につながるコツや空間の使い方を、気付き、考え、指示が出せるよう、習熟度に分けたグループ活動を取入れて学習を展開したい。これにより、攻撃への興味関心がさらに高まり、仲間との連係プレーの大切さを実感することで献身的な言動が現れ、称賛し合える仲間作りの活動になることを期待したい。

（３）この単元を指導するにあたって、次の点に留意したい。

　　① 個人的技能の向上を称賛し、学習の反省をもとに課題解決のための積極的な声かけを行う。

　　② 集団行動を意識させ、自分と仲間の安全に留意した行動をする力を育てる。

　　③ 技能段階に応じて、練習の場の人数、練習方法などを工夫し、協力して活動ができるようにする。

　　④ ボール操作の基本的な技術を身につけるため、段階に応じた練習や試しのゲームを選択できるようにする。

３　評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ネット型球技の特性や成り立ちについて知識を身につけ、体の使い方のポイントや練習の仕方について理解できる。また、狙った場所にボールを運ぶためのボール操作技術や、仲間と連携してボールをつなぎ攻撃に結びつけるための技能を身につけている。 | ボール操作やボールを持たないときの動きなど、自分の役割に応じたバレーボールの楽しみ方のポイントを見つけている。また、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶことができる。そして、状況や状態に応じて気付いたことや考えたことを言葉や文字で表している。 | バレーボールの楽しさやボールをつなぐ喜びを味わえるよう、学習に積極的に取り組もうとしている。また、自分の役割を果たそうと活動に関わり、仲間の学習を援助しようとしている。自他の健康や安全に気を配り、声掛けや球拾いなどの働きかけを自ら行うことができる。 |

４　学習指導計画

|  |  |
| --- | --- |
| ○指導内容（時間８時間） |  |
| （１）オリエンテーション・チーム分け・ゲーム | ・・・　１時間 |
| （２）ボール操作Ⅰ（アンダー・オーバーハンド） | ・・・　１時間 |
| （３）ボール操作Ⅱ（投げ上げスパイク） | ・・・　１時間 |
| （４）ボール操作Ⅲ（サーブ） | ・・・　１時間 |
| （５）攻撃作り・フォーメーション作り | ・・・　２時間（本時６／８時間目） |
| （６）試しのゲーム | ・・・　２時間 |

５　本時の学習指導

　（１）目標　「攻撃をつくるために、仲間と連携してコートの中でどう動くかをイメージし、表現することができる。」

（２）学習指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 生徒の予想される反応 | 指導上の留意点 |
| つかむ　　　　　　つかう　　　　　　くらべる　　　　　　　　　　　　　つなぐ　　　　　　　　　　　かえる  （つかむ　つかうは前時)　　　　　 　　　　　くらべる　　　　　　　　 　つなぐ　　　　かえる | １　整列し人員点呼をする。  　　挨拶をする。  ２　準備運動をして、直上20秒チャレンジを行う。  　　・落下点  　　・パワーポジション  　　・膝のばね、力  ３　投げ上げスパイクの練習をする。  ４　本時の学習課題の確認をする。  ５　攻撃の作り方の説明を聞き、練習する。  （１）スロットを確認する。  （２）テンポを確認する。  （３）グループで攻撃をつくる。  ６　試しのゲームをする。  （１）ポジション固定  （２）１５点マッチ  （３）習熟度別チーム対戦  **まとめ　　チームで約束した「連係プレー」でボールをつなげると、バレーボールがより攻撃的になる。**  ７　振り返りをする。  （１）20秒チャレンジの記録を入力する。  （２）振り返りカードを記入し、ロイロノートで提出する。 | ・タブレットを準備しないと。  ・声を出して、体を動かすぞ。  ・今日は〇〇回目指すぞ。  ・オーバーハンドとアンダーハンドの交互にチャレンジしてみよう。  ・リズムを整えて、ジャンプしてみるぞ。  ・バックスイングを大きくするぞ。  ・今日は調子がいいな。  ・今日は何をするのかな。  **学習課題　　　　　連係プレーでボールをつなぎ、攻撃してポイントをとろう。**  ・ハイキューみたいに連係プレーできるといいな。  ・レシーブが大切だな。  ・テンポとスロットで攻撃が組み立てられるんだ。  ・スロットは攻撃位置なんだ。  ・テンポは、攻撃の速さなんだ。  ・試しのゲームで、独特の攻撃にチャレンジしてみよう。  ・自分の役割を果たそう。  ・チームの勝利に貢献するぞ。  ・ゲームで1回チームの攻撃ができたな。  ・次は、連係プレーの回数を増やすぞ。  ・自分の役割を果たせたな。 | ・タブレットＰＣを適切に使用するよう指示を出す。また、表情や顔色を監察する。  ・ボール操作技術向上にむけて、コツ・ポイントを伝えて回り、記録が伸びるよう支援する。  ・広いスペースが確保するために全体を見回すよう声をかける。  ・ボールを転がさない、人の流れは一方通行の注意を促し、安全配慮に気をつけさせる。  ・トスを安定して、一定に出せるよう技術指導する。  ・ハイキューのアニメや実際の試合風景を画面配信し、イメージを共有する。  ・レシーブに関わる人、トスに関わる人の位置関係を意識させる。  ・攻撃に関わる人の動きを、テンポとスロットの関係性から考察できるように発問する。  ・グループで各自の役割を果たしながら練習が進むよう、コートを巡回する。  ・習熟度に分けた対戦相手になるよう指示をする。  ・攻撃を組み立てられる機会が来たら、声をかけ、連係プレーを意識させる。  ・チーム独自の攻撃ができていた場面を、映像などで称賛する。  ・ボールを持たないときの動きを振り返らせ、自己評価を促す。  ・振り返りカードの確認をする。 |

　（３）ここでは、振り返りカードの記述を分析することにより「思考・判断・表現」の評価を行う。

　　　Ａ：オフザボールの動きについて、自分と仲間に関する具体的な記述があり、攻撃やボールをつなげるために動い

た表現がある。

　　　Ｂ：オフザボールの動きについて、自分または仲間に関する記述があり、攻撃やボールをつなげた場面の表現がある。

　　　Ｃ：２０秒チャレンジや、投げ上げスパイク、ゲームといった活動に関する表現のみが記述されている。

※Ｃについては、他者の表現内容などを参照させ、自らの気付きを感じ取らせ表記するように促す。